

あつぎ郷土博物館年報 8

ANNUAL REPORT OF ATSUGI CITY MUSEUM



令和8年(2026)5月

● 目 次 ●

1	沿 革	3
2	施設概要	4
3	平面図	5
4	基本展示	6
	(1) 基本展示	6
	(2) 融合展示	6
5	企画展示	
	(1) 市制70周年記念特別展	7
	(2) 企画展示	8
	(3) ミニ展示 学芸員のおススメ	11
	(4) 展示会関連講座	12
	(5) その他展示関連	13
6	普及啓発活動	
	(1) 定期講座	15
	(2) 施設見学	16
	(3) 出前展示・講座	17
	(4) レファレンス業務	19
	(5) 学芸員実習・職場体験学習等	21
	(6) 研究指導	21
	(5) その他	21
7	調査研究活動	
	(1) 人文科学分野	22
	(2) 自然科学分野	22
8	刊行物	
	(1) 展示会図録等	24
	(2) 博物館NEWS等	25
9	古民家岸邸	
	(1) 展示	30
	(2) 講座	30
	(3) 解説	31
10	資料の収集・保管・活用	
	(1) 資料の収集状況	32
	(2) 資料の保管状況	33
	(3) 資料の館外貸出等	34
11	組織及び職員	
	(1) 組 織	36

(2) 博物館協議会	36
12 施 設	
(1) あつぎ郷土博物館	37
(2) 古民家岸邸	38
13 入館者数	39

1 沿 革

あつぎ郷土博物館の建設から令和7年度までの経緯は、おおむね次のとおり。

(仮称)郷土資料館として、平成29年度より本格的な建設準備に着手し、平成31年1月27日に開館。正式名称を「厚木市立あつぎ郷土博物館」と改めた。

平成20年6月	文化財課(当時)が市民公園(下川入)整備構想担当課に決定
平成27年3月1～30日	基本方針(案)に対するパブリックコメント実施
平成28年4月1日	(仮称)あつぎ郷土資料館検討委員会を設置
平成29年3月	(仮称)あつぎ郷土資料館建設実施設計、展示設計を実施、完了
平成29年10月	建築着工
平成30年9月	駐車場等外構工事着手、埋蔵文化財収蔵庫建築工事着工
平成30年10月31日	(仮称)あつぎ郷土博物館竣工
平成30年11月～	展示工事着手
平成31年1月18日	展示工事完成
平成31年1月27日	あつぎ郷土博物館開館
	あつぎ郷土博物館条例が施行される。
平成31年3月24日	来館者1万人達成
令和2年2月22日	文化財保護課Facebook運用開始
令和2年6月28日	来館者5万人達成
令和2年11月16日から令和3年1月22日まで	新型コロナウイルス感染防止対策に伴う空調改修工事
令和4年10月16日	来館者10万人達成
令和6年1月28日	開館5周年記念事業実施
令和6年9月5日	来館者15万人達成
令和8年3月7日	来館者20万人達成

※新型コロナウイルス感染防止対策のため休館等

令和2年3月3日から5月26日まで

令和3年1月12日から3月21日まで

令和3年4月24日から8月6日まで イベント中止

令和3年8月7日から9月30日まで

令和4年1月21日から3月6日まで イベント中止

2 施設概要

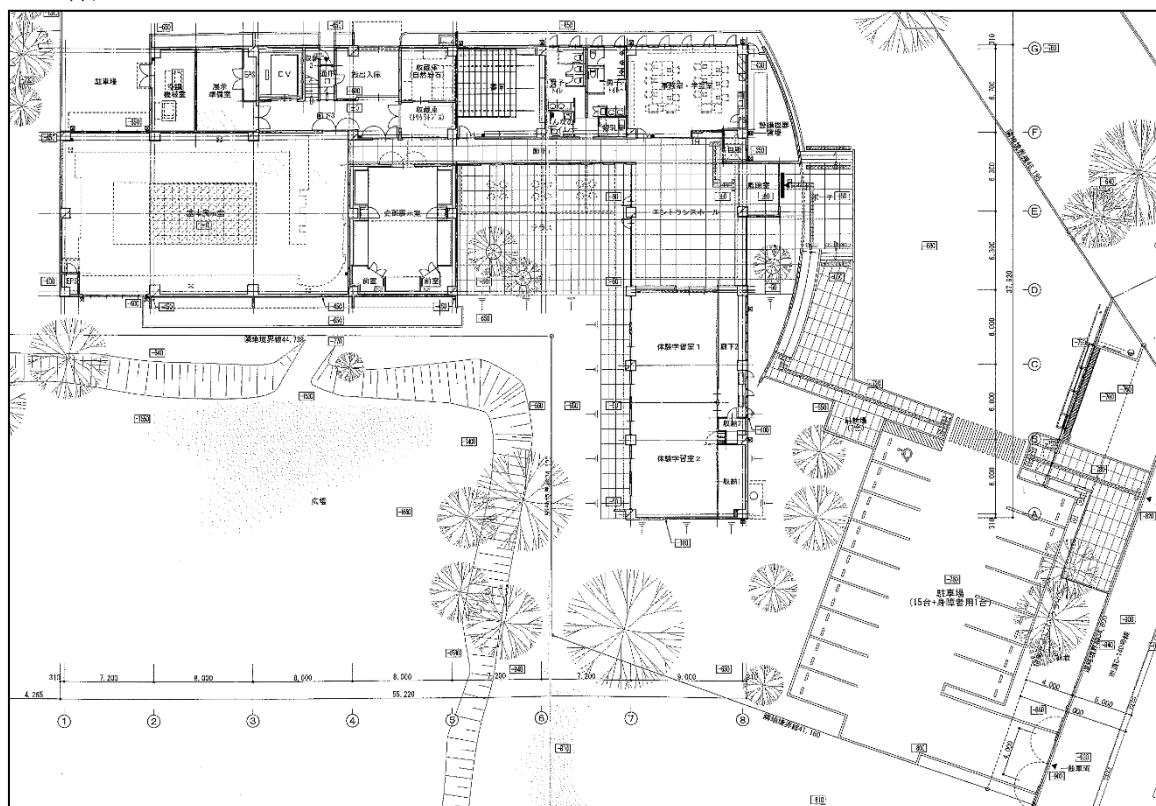
所在地 神奈川県厚木市下川入1366番地 4
敷地面積 10,025m²
建築面積 1,590.10m²
延床面積 1階 1,092.59m²、2階 497.51m²
構造 鉄筋コンクリート造 2階建
工期 着工 平成29年10月
完成 平成30年10月
開館 平成31年 1月27日

工事関係者一覧

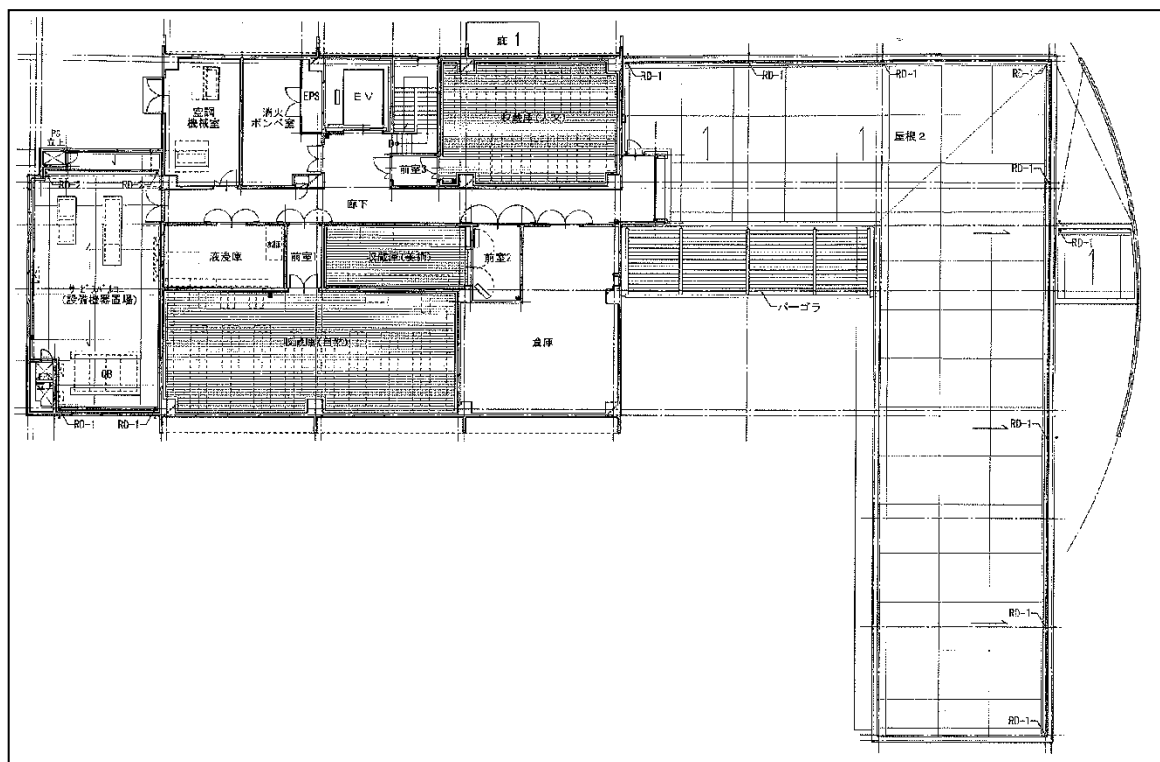
建築設計・管理	株式会社 小林建築事務所
展示設計・管理	株式会社 丹青社
建築工事	山王・安藤特別共同企業体
外構工事	山王・安藤特別共同企業体
展示工事	株式会社 丹青社

3 平面図

・ 1 階



・ 2 階



4 基本展示

(1) 基本展示

「基本展示」は、地学・考古・歴史・民俗・自然の5つの分野で構成し、各分野でさらに項目、細項目をたて、郷土あつぎを理解できるような展示としている。実物資料を中心とする興味深い資料を展示し、具体的なデータはパネル等で説明している。

基本展示室内の「融合展示」は、開館以来、木・火・土・金・水及び浮世絵をテーマに展示内容を年度ごとに更新していたが、令和7年度は、触察をテーマに「一めぎせ「^{ユニバーサルミュージアム}みんなが楽しい博物館」一触って 感じる あつぎ展」と題し、年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが楽しめる展示を目指す博物館のインクルーシブ化の一環として展示した。

- ・ 展示面積 304.15m²
- ・ 展示資料数 590点
- ・ 基本展示テーマ、資料点数内訳

分 野	地 学	考 古	歴 史	民 俗	自 然	合 計
基本展示 テーマ	あつぎの 風土を望む	あつぎの 大地から	あつぎの原風 景を訪ねて	あつぎの人、 くらしに出 会う	あつぎの環境 と生きものを 探る	
基本展示 資料点数	11	157	203	106	113	590

(2) 融合展示

常設展示として触察をこの規模で実施することは、神奈川県内でも初の試みであり、全国的にも珍しい展示となり注目を集めた。

	分野	テーマ	資料 点数
1	導入1	「触察」ことはじめ-触る文字・点字-	3
2	導入2	「触察」開始！-まずは、触り方レッスン-	1
3	考古1	縄文土器に触る	4
4	考古2	古代の瓦に触る	5
5	歴史	浮世絵に触る	2
6	民俗1	洗濯道具を持つ	8
7	民俗2	灯りの道具に触れる	7
8	3D	3D-触れない物に触る-	2
合 計			32

5 企画展示

(1) 市制70周年記念特別展

「寿 ―毛利家と共に―」

期 間 1月24日～3月1日

開催日数 35日

入場者数 特別展示単独のカウントはしていないが、期間中の
博物館入館者数は5,338人（1日平均 約152人）

戦国大名として有名な毛利元就の安芸毛利氏は、鎌倉幕府初代征夷大將軍の源頼朝の側近として仕えた大江広元の四男・季光が、相模国毛利荘（現在の厚木市の一部）を所領し、毛利と名乗ったことに始まる。本展示会は、毛利氏と厚木市の歴史的つながりを多くの市民に知っていただくことを目的に企画、実施した。

また、令和7年度が市制70周年であることから、毛利博物館からお祝いに因んだ資料を中心に借用し、お祝いムードを盛り上げる展示とした。

※ 展示資料数 26点（山口県指定文化財3点を含む）

防府市の物産品を一般社団法人厚木市観光協会が販売する日を設けたこと及びテレプレゼンスシステム「窓」を使ったインターネットによる展示解説・相互交流を実施するなど、通常の講座・ワークショップ以外のイベントを実施し、来館を促した。



(2) 企画展示

あつぎ郷土博物館では令和7年度、以下の企画展示を開催した。

	タイトル	期 間／日 数	入館者数 (1日平均)
ア	地域再発見！4 荻野地域 -光善院・あかとんぼ・ガラス工芸-	令和7年3月29日～6月22日／2日間 (83日※1)	7,415(89) 7,612(90)※1
イ	いとまんの文化と自然	令和7年7月19日～9月7日／48日間	5,116(107)
ウ	記録されたあつぎの災害 —地震・神鳴り・禍事・やまひ—	令和7年10月4日～11月30日／55日間	4,555(83)
エ	地域再発見！5 小鮎地域 —祈り・ぎふてふ・亀太郎—	令和8年3月28日～3月31日／3日 (83日間※2)	273(91)

※1の期間及び入館者数は、令和6年度実施分を加えた数字。

※2の期間及び入館者数は、令和8年度実施分を数字。

ア 「地域再発見！4 荻野地域-光善院・あかとんぼ・ガラス工芸-」

厚木市の地域に焦点を絞り、その地域に由来する特徴的な資料を紹介することで地域の魅力を再発見し、郷土学習を深めることを目的に毎年開催している。地域展の4回目として荻野地域を取り上げた。劇的に減少したアキアカネを含むアカトンボ類が、荻野地区ではまだ観察できることを紹介、故小林貢寄託のガラス工芸品、荻野山中藩関係の資料、千葉家文書（修験道資料）等を展示した。



イ 「友好都市・いとまんの文化と自然」

友好都市・糸満市の文化と自然を、糸満市から借用する民具などの実物資料を中心とした展示会を実施した。人文科学分野では、南方諸地域、中国の影響が色濃くみられる糸満の文化を、生業（漁業、農業）関係は市指定文化財のミーカガン作製道具やサバニを、年中行事（祭り、芸

能)はハーリー衣装、その他、食住、先祖祭祀など多岐に渡る資料を借用し、展示した。また戦争関連遺物も紹介し、戦後 80 年を振り返った。

自然科学分野では、糸満市内で普通に観察できる種の紹介、亜熱帯特有ではあるものの沖縄本島で記録が極めて稀なマエモンカマキリが糸満市内で発見されたことを受け、学芸員が現地調査した結果も紹介した。

厚木市と糸満市の文化と自然の違いを知ることを通して、厚木市民が、自らの文化、くらし、環境について改めて知り、考える機会を提供した。あわせて講演会、上映会なども実施して、展示を補完した。



ウ 「記録されたあつぎの災害 ―地震・神鳴り・禍事・やまひ―」

江戸時代から明治・大正期までの間に厚木市域を襲った災害を博物館収蔵資料を中心に、地震(関東大震災)・水害・火事と富士山宝永噴火、伝染病などの被害と対応がわかる資料を展示した。これから起こることが予測されている南海トラフの揺れを体験する起震車体験、宝永噴火の市域内の被害状況に関する講演会をあわせて実施した。



エ 「地域再発見！ 5 小鮎地域 -祈り・ぎふてふ・亀太郎-」

地域展の5回目として小鮎地域を取り上げた。金剛寺や長谷寺に関する資料や養蚕業を大きく発展させた外山亀太郎に関する資料、飯山白山がギフチョウの産地として全国的に著名であったことなどを展示した。



(3) ミニ展示 学芸員のおススメ

あつぎ郷土博物館では令和7年度、基本展示室内で以下の展示を開催した。

	タイトル	期 間／日 数	入館者数 (1日平均)
1	下古沢出土土師器	令和7年3月29日～4月27日／30日※1	2,658(89)
2	『本草図譜』に見る初夏の花	令和7年4月29日～5月25日／27日	2,762(102)
3	和田傳と児童文学	令和7年5月27日～6月28日／33日	2,609(79)
4	愛甲三郎季隆	令和7年6月29日～7月16日／18日	1,190(66)
5	いとまんのセミ	令和7年7月19日～9月28日／72日	7,295(101)
6	文書に見る人の一生	令和7年10月1日～12月14日／75日	5,514(74)
7	『和漢三才図会』に見る市の鳥	令和8年1月23日～2月23日／32日	4,153(130)
8	鎌倉御家人とあつぎ	令和8年2月25日～3月25日／29日	2,530(87)
9	江戸の桜	令和8年3月28日～31日／4日※2	273(68)

※1の期間は、令和6年度実施分を加えた数字。

※2の期間は、令和7年度実施分のみの数字。

(4) 展示会関連講座

ア 展示関連講座

特別展・企画展の開催にあたり、見学者の理解を深め、また展示効果を高めるため、展示テーマに関連した講演会・体験学習等を企画した。

回	開催日	テーマ	場所	参加者数
1	7月19日	沖縄の身体装飾 講師：川添裕子氏（松蔭大学教授）	体験 学習室	27
2	7月30日	記録映像上映会 糸満の民俗芸能1 講師：大野一郎（あつぎ郷土博物館学芸員）	体験 学習室	22
3	8月6日	記録映像上映会 糸満の民俗芸能2 講師：大野一郎（あつぎ郷土博物館学芸員）	体験 学習室	11
4	8月11日	テレビドラマと「方言」 講師：田中ゆかり氏（日本大学教授）	体験 学習室	30
5	8月23日	沖縄の祖先祭祀一位牌と墓を中心に－ 講師：稲福政斉氏（沖縄県文化財保護審議会専門委員）	体験 学習室	25
6	8月24日	もっと触りたい縄文土器(午前) 講師：佐藤健二（厚木市文化魅力創造課）	体験 学習室	15
7		もっと触りたい縄文土器(午後) 講師：佐藤健二（厚木市文化魅力創造課）	体験 学習室	33
8	8月27日	記録映像上映会 糸満の暮らし 講師：大野一郎（あつぎ郷土博物館学芸員）	体験 学習室	18
9	10月18日	南海トラフを体験する 講師：厚木市危機管理課	博物館 前	62
10	11月30日	富士山宝永大噴火と県央地域 講師：馬場弘臣氏（元東海大学教授）	体験 学習室	41
11	1月25日	長州藩毛利家の歴史と文化 講師：柴原直樹氏（毛利氏博物館館長）	体験 学習室	71 (100)
12	2月8日	毛利氏領国の怪談話 講師：小泉 凡氏（島根県立大学短期大学部 名誉教授・小泉八雲曾孫）	体験 学習室	88
13	3月1日	現代の殿様 講師：毛利就慶氏（徳山毛利家14代当主）	体験 学習室	89 (170)
合計 13回				532 (642)

() 内は、ホールにカメラとモニターを設置し座席を設け、そこでの聴講者を含めた数字。

イ 展示解説

特別展・企画展の開催にあたり、見学者の理解を深め、また展示効果を高めるため、各展示担当の学芸員による展示解説を実施した。

	実施日	事業名	人数	小計(人)
特別展	1月31日	寿 一毛利家と共に― 担当：山岡 裕子 (あつぎ郷土博物館学芸員)	24	162
	2月11日・窓		40	
	2月14日・窓		30	
	2月15日・窓		63	
	2月23日		25	
企画展	10月4日	記録されたあつぎの災害―地震・神鳴り・禍事・やまひ― 担当：飯田 好人 (あつぎ郷土博物館学芸員)	7	25
	10月25日		10	
	11月15日		8	
地域展	4月12日	荻野地域展（民俗） 担当：大野 一郎 (あつぎ郷土博物館学芸員)	4	23
	4月19日	荻野地域展（歴史） 担当：飯田 好人 (あつぎ郷土博物館学芸員)	17	
	4月26日	荻野地域展（自然） 担当：槐 真史 (あつぎ郷土博物館学芸員)	2	
				210

(5) その他展示関連

ア 学^{がくげいいん}藝員のススメ」広報連動展示

「広報あつぎ」15日号に「学^{がくげいいん}藝員のススメ」を連載しているが、紹介した資料を基本展示室又は企画展示室に展示した。令和7年度は、ガラス工芸（4月）から裏打ち文書（3月）まで12回掲載をした。

	掲載号	テーマ（紹介資料）	展示（場所）	分野	担当
1	4月15日	ガラス工芸	地域展示	美術	山岡
2	5月15日	荻野の古文書	地域展示	歴史	飯田
3	6月15日	江就記	特別展示	歴史	山岡

4	7月15日	トートーメ	特別展示	民俗	大野
5	8月15日	アグー	特別展示	民俗	大野
6	9月15日	東鑑	特別展示	歴史	山岡
7	10月15日	相模国地震図 瓦版	特別展示	歴史	飯田
8	11月15日	東鑑 黄色い蝶と毛利氏滅亡	特別展示	歴史	飯田
9	12月15日	洞春寺の瓦	特別展示	歴史	山岡
10	1月15日	毛利元就軍幟	特別展示	歴史	山岡
11	2月15日	毛利隆元が描いた扇子	特別展示	歴史	山岡
12	3月15日	裏打ち文書	触察展示	歴史	谷川

あつぎ郷土博物館 学芸員のススメ 第73回 博物館の学芸員が、あれこれを語り倒すコーナー。

**毛利元就が出陣の時に
翻った幟『毛利元就軍幟』**
山岡 裕子

毛利氏は、鎌倉時代に大江広元の四男・季光が毛利荘（現在の市の一部）を相続したことで「毛利」の姓を名乗り始めました。1月24日から開催する市制70周年記念展示「寿・毛利家と共に」では、市とゆかりのある毛利氏にスポットを当てた資料を展示します。

戦国大名として有名な毛利元就は、一代で中国地方を支配する大大名となりました。元就が出陣時に使ったと伝わるのぼり旗で、現存する3枚のうち1枚を展示します。大きさは縦が約90センチ、横が約43センチ。元々、縦長だった旗の下部が欠損したと思われ

ます。上部だけ棒に差して固定した流れ旗だったようです。

布に織り込（山口県指定有形文化財）
▲毛利元就軍幟
【毛利博物館蔵】

まれているのは「縮子地亀甲縹文」という亀の甲羅のような模様です。亀甲文は厳島神社の神文で、旗に使われた布は厳島神社の御神衣であると伝えられ、軍神の名と毛利家の家紋である一字三星紋が墨書きされています。

記念展示では他の貴重な資料も集まりますのでぜひ、この機会にご覧ください。博物館はこちら

あつぎ郷土博物館 ☎225-2515

あつぎ郷土博物館 学芸員のススメ 第70回 博物館の学芸員が、あれこれを語り倒すコーナー。

アグー
沖縄県糸満市の豚食文化を象徴
大野 一郎

友好都市の糸満市を紹介する特別展「いとまんの文化と自然」を開催しています。沖縄といえば、ラフテー、ソーキそば、ティビチ（豚足）、チラガー（豚顔）などのブタ料理。「ブタは声まで食べられる」らしく、内臓のみならず、血まで食されます。私たちは胃・小腸・大腸をホルモンと言って食べますが、沖縄では「ナカミ」と呼び、すまし仕立ての汁にします。血は正月のごちそうになる重要な食材です。

沖縄では人とブタの距離が近く、ふん尿をブタが処理するウーフル（ブタ便所）という施設が自宅に設置されるなど

住文化にも影響を与え、漁師は豚の血で網を煮て丈夫にしています。

1980～2000年代になると、外来豚と比べおいしさや栄養価の面で優れたアグーの価値が認められるように。沖縄では「ウチナームン（沖縄のもの）」に高い価値を置く流れが生まれます。沖縄文化のシンボルとなったのが「真っ黒なアグー」だったのです。

▲アグーの剥製（名護博物館所蔵）

博物館はこちら

あつぎ郷土博物館 ☎225-2515

6 普及啓発活動

あつぎ郷土博物館では、調査・研究の成果を活かした普及講座を行なっている。令和7年度は、土日を中心にワークショップを実施した。また、教育普及活動として小学校や公民館への出前講座等を実施した。

(1) 定期講座

ア 古文書講座

事業名	実施日	講座名	場所	参加人数
古文書講座	2月12日(木)	はじめての古文書 講師：飯田 好人（あつぎ郷土博物館学芸員）	体験学習室	11
	2月19日(木)			11
	2月26日(木)			11
	3月5日(木)			10
	3月12日(木)			10
	3月19日(木)			10
	合 計（6回）			63

イ ワークショップ

開催日	内容	場所	参加者数
7月27日	読んで書いてわくわく和田傳 低学年の部 講師：白坂洋一(筑波大学附属小学校教諭)	体験 学習室	7
	読んで書いてわくわく和田傳 高学年の部 講師：白坂洋一(筑波大学附属小学校教諭)		7
9月23日	点字用紙de簡単工作 オリジナル点字名刺を作ろう 講師：福喜多恭子氏(県視覚障害者福祉協会)		28
2月21日	勾玉作り		18
2月28日			18
合計（5回）			64

ウ 共催講座

郷土資料館の頃から、資料整理、調査、普及活動で協働してきた団体との活動を、あつぎ郷土博物館への移転後も継続、実施している。

団体（活動日）	回数	参加人数
古文書解読会（第 2、3、4 木曜日）	33	637
合計（33回）		637

(2) 施設見学

ア 郷土博物館の見学

あつぎ郷土博物館が収蔵する郷土資料について市民への公開を進めるため、小中学校、公民館、保育所等を中心に受け入れを行っている。博物館の見学マナーや基本展示の解説及び教科に合わせた解説を中心に施設見学を行った。その他、出前展示、講座を実施している。

(ア) 小学校

来館日	学校名	人数	担当
9 月 24 日	戸田小学校 4 年生	60	谷川
1 月 16 日	妻田小学校 3 年生	79	山岡、槐
2 月 20 日	依知小学校 3 年	54	大野
3 月 25 日	七沢希望の丘小学校 3 年生	9	大野
	合計（4 校）	202	

(イ) 幼稚園・保育園

来館日	園名	人数	担当
1 月 30 日	南毛利保育所	37	槐
	合計（1 回、1 園）	37	

(ウ) 大学

来館日	大学名	人数	担当
7 月 11 日	神奈川工科大学	8	山岡
12 月 12 日	神奈川工科大学	11	山岡
	合計（1 大学 2 回）	32	

(エ) 各種団体

各種団体からの申し出に基づき、学芸員、博物館職員が対応した。
対応の必要があったものについては担当者を記した。

来館日	団体名	人数	担当
4月8日	デイサービス グランモールさくら及川	19	—
5月10日	放課後等デイサービス マジカルシューズ	16	—
5月10日	一友会	24	飯田
7月2日	七沢療育園	8	—
7月9日	七沢療育園	8	—
8月2日	糸満市訪問団（企画政策課）	6	大野
8月21日	放課後等デイサービス マジカルシューズ	16	—
8月30日	放課後等デイサービスちゃいくろ2号館	20	—
10月20日	愛川町録音ボランティアグループ かえでの会	15	大塚
11月8日	厚木市技能職団体連絡協議会	18	山岡
11月12日	障害者生活介護支援事業所 のびやか	30	—
11月13日	障害者生活介護支援事業所 のびやか	22	—
11月18日	綾瀬市史跡ボランティア	12	大野
11月18日	障害者生活介護支援事業所 のびやか	25	—
11月28日	障害者生活介護支援事業所 のびやか	25	—
1月27日	南毛利公民館	20	山岡
2月9日	厚木南公民館	17	山岡
2月15日	睦合西地区青少年健全育成会	30	山岡
2月21日	放課後等デイサービス マジカルシューズ	16	—
2月27日	愛甲公民館	14	山岡
2月27日	緑ヶ丘公民館	19	山岡
3月1日	（公財）防長倶楽部	15	山岡
3月15日	日本博物館学会研究会	17	大塚 大野
合計（14団体17回）		365	

(3) 出前展示・講座

あつぎ郷土博物館が収蔵する郷土資料について市民への公開を進めるため、小中学校、公民館等で出前講座を実施した。

(ア) 小学校

開催日	学校(対象、内容)	人数	担当
12月4日	戸田小学校 6年生 戸田のくらし	48	大野
1月26日	厚木小学校 3年生 むかしの道具	148	大野
1月27日	上依知小学校 3年生 むかしの道具	38	大野
1月29日	三田小学校 3年生 むかしの道具	108	大野
1月30日	第二小学校 3年生 むかしの道具	132	大野
2月3日	飯山小学校 3年生 むかしの道具	26	大野
2月5日	鳶尾小学校 3年生 むかしの道具	38	大野 谷川
2月6日	毛利台小学校 3年生 むかしの道具	83	大野
2月19日	相川小学校 3年生 むかしの道具	34	大野
2月20日	依知小学校 3年生 むかしの道具	51	大野
通年	相川小学校 4年生 総合的学習	301	槐
	合計 (11回、10校)	1007	

(イ) 職員派遣 (講師、委員等)

開催日	内容(場所)	人数	担当
5月28日	歴史探訪講座 飯山地区 (厚木北地区文化振興会)	23	大野
11月1日	玉川地区の歴史を学ぼう (玉川公民館)	30	飯田
11月2日	依知のむかし「浅間神社縁起」 (依知南公民館)	50	大野
11月8日	あつぎの歴史を学ぼう (教育研究所)	30	大野 山岡
11月18日	公文書館調査委員会 (企画総務課) *2月3日も出席	—	大野
11月28日	和田傳文学からみたあつぎ (神奈川工科大学)	16	大塚
12月5日	農具からみたあつぎ (神奈川工科大学)	16	大野
12月23日	相川地区史跡めぐり教室 (相川公民館)	15	大野
3月7日	「触察展示」 (日本博物館学会研究会)	17*	大野 大塚

3月20日	博物館ができるまで（小田原市郷土館）	60	大野
合計（10回）		300	

＊人数には含まれていないが、動画のライブ配信を実施している。

（4）レファレンス業務

地域資料に関する市民の疑問、質問の相談に対し、あつぎ郷土博物館が調査・収集・研究している情報に基づいて回答している。令和7年度の業務件数は以下のとおり。

ア 一般回答 総数38件（うち人文系32、自然系4、その他2）

分野	質問者	相談内容	内容、対応	担当
人文	一般	毛利氏とあつぎの関わりについて	吾妻鏡に基づき回答	山岡
	一般	火打ち石、金の使用法等について	火打ち石と金を購入したが火が点かないと。火口を紹介した。	大野
	一般	毛利台開発と関連資料について	移住者の高齢化で、団地の歴史が分からなくなる、アクションの起こし方を千里、多摩ニュータウンの展示から説明、厚木でも注視している。公文書については担当部署を紹介。	大野
	一般	和田傳について	人となりや展示について	大塚
	一般	荻野地区の養蚕について	小学生に養蚕を説明する資料はあるか。	大野
	一般	昆虫標本について	昆虫標本の保存や寄贈先の紹介について	槐
自然	一般	撮影した鳥について	種の同定依頼	槐
	一般	荻野地区の植物について	植物相に係る問い合わせ	槐
	行政	上古沢の自然度について	RD 生物相のガイダンス	槐
その他	一般	中学校の授業の教材について	博物館資料を授業の資料としたい。使える資料はあるのか。	山岡

イ メディア対応 総数17件（掲載12件、放送5件）

月日	種類	依頼者	取材内容	対応
4/4	掲載	神奈川新聞社	ユニバーサルミュージアム及び「地域再発見！4 荻野地域 ～光善院・あかとんぼ・ガラス工芸」等	山岡 大野 大塚
4/9	掲載	毎日新聞社	ユニバーサルミュージアムについて	山岡 大塚
5/15	放送	NHK	首都圏ネットワーク「おでかけしゅと犬くん」 ユニバーサルミュージアム紹介	河内 大塚
5/15	放送	FM 横浜	「ちょうどいいラジオ」 ユニバーサルミュージアム紹介	河内 大塚
7/8	掲載	神奈川新聞社	『和田傳短編集【令和版】第一巻 少年少女に贈る五つの物語』の刊行について	大塚
7/25 ・26	放送	NHK	首都圏いちオシ！笑ったび トリケラトプスの紹介等	山岡 谷川
7/28	掲載	神奈川新聞社	友好都市展 いとまんの文化と自然	大野
8/1	掲載	タウンニュース	友好都市展 いとまんの文化と自然	山岡 谷川
8/15	放送	厚木伊勢原ケーブルネットワーク(株)	イワイガワの神奈中バスで移動中	大野 谷川
9/5	掲載	タウンニュース	あつぎ古民家岸邸 秋の絵はがき教室	谷川
9/23	掲載	タウンニュース	点字用紙de簡単工作 オリジナル点字名刺を作ろう！について	山岡
9/23	放送	厚木伊勢原ケーブルネットワーク(株)	点字用紙de簡単工作 オリジナル点字名刺を作ろう！について	山岡
10/5	掲載	タウンニュース	あつぎ古民家岸邸 秋の絵はがき教室	谷川
10/8	掲載	神奈川新聞社	記録されたあつぎの災害 ―地震・神鳴り・禍事・やまひ―展	飯田
10/8	掲載	毎日新聞社	記録されたあつぎの災害 ―地震・神鳴り・禍事・やまひ―展	飯田
11/24	掲載	タウンニュース	視覚障がい者歩行用テープ及び触察展示について	山岡
1/24	掲載	中国新聞	市制70周年記念展示「寿一毛利家と共に―」について	井出 河内

(5) 学芸員実習、職場体験学習等

筑波大学、日本女子大、鶴見大学、実践女子大学の学生4人を受け入れた。
令和7年7月25日から9月6日までの計8日間。9月6日は実習生による展示解説を実施し、6人の一般参加者があった。

(6) 研究指導

市民からの自主的研究の申し出に基づき、学芸員が研究指導を行った。
今年度は自然科学分野で1件の申し出があり、調査デザイン、調査手法、データ収集・解析、論文作成の指導を行った。

ア 自然科学分野

(ア) 氏名・所属 三橋叶太さん（厚木市立北小学校4年次在籍）

(イ) テーマ

『ぜん明川で見つけたアオハダトンボの記録 ～識別した個体数と出現期間（2025年～）』

(ウ) 指導者 槐 真史（あつぎ郷土博物館学芸員）

(エ) 当該指導に係る受賞歴

2025年度第33回[木原記念こども科学賞]小学校高学年の部
神奈川新聞社賞

(オ) 備考

当該指導における過去の受賞歴

2023年度第31回[木原記念こども科学賞]小学校低学年の部 優秀賞
2024年度第32回[木原記念こども科学賞]小学校低学年の部
神奈川新聞社賞

(7) その他

神奈川工科大学の授業の資料とするために、博物館で発行している書籍を提供し、内容について助言した。また、その資料を使った成果（あつぎの歴史を正しく教えてくれるAIの開発）を同大学が実施した8月8日のサイエンスサマーで発表し、イベント来館者に楽しみながらあつぎ歴史を知ってもらうことができた。

7 調査、研究活動

(1) 人文科学分野

ア 相模人形芝居総合調査

神奈川県内4市に残された国指定無形民俗文化財である相模人形芝居について、令和7年から3年間、芸態から道具まで幅広く総合的な調査事業が実施されるが、本市の長谷座、林座を文化財保護係が担当することとなった。当館も学芸員の派遣を行い参加したが、本年度は衣装など道具の調査、撮影を行うとともに、過去の調査資料の整理を行った。

最終年に報告書の刊行を予定しており、本年度は打ち合わせの際に進捗状況報告のみ行った。

イ その他口頭発表

大野一郎 2025.9.17 伊勢原市歴史アドバイザー研修「民俗文化財の扱い」

大野一郎 2025.12.11 横浜市青葉郷土史の会「横浜の富士信仰」

大野一郎 2026.2.12 東海大学「博物館施設と学芸員」

(2) 自然科学分野

ア 郷土博物館敷地内における昆虫相の記録と季節消長に関する調査

(ア) 概況

当館は、中津川およびその流域に広がる水田景観という、厚木市の原風景を残す地域に立地している。敷地内には、アカマツ・クヌギ・エノキを主体とした植林由来の小規模林と、シバ・ススキを主とする草地が存在し、周辺に生息する昆虫類が飛来・定着する環境にある。このため、博物館敷地は小規模ながらビオトープとしての機能を有すると推測される。

本調査では、この立地条件を活かし、晴天日の午前中に、林縁・草地・博物館壁面の3地点において飛来昆虫の種構成および個体数を継続的に記録した。これにより、飛来昆虫の種相や季節消長の蓄積を図るとともに、敷地がビオトープとして機能するか検証するための基礎データを収集した。

(イ) 論文

本調査の成果は、神奈川県立生命の星・地球博物館が刊行する『神奈川県自然誌資料』などへの投稿を目指して整理を進めている。また、カメムシ目的一种について先行して報告すべき知見が得られたため、神奈川県昆虫談話会で発表した。

槐 真史, 2025a. 神奈川県におけるヒメマダラナガカメムシの記録. 神奈川虫報, (217): 70-71.

イ バッタ目バッタ亜目の幼虫期を中心とした形態学的研究

(ア) 概況

本研究では、バッタ目バッタ亜目に属する種群を対象に、幼虫期の形態的特徴の記載・比較を通じ、成長段階に伴う形態変化の整理および分類学的識別点の抽出を目的としている。幼虫期の形態情報は成虫に比べて記載例が少なく、分類学的研究や生態学的研究において基礎資料としての重要性が高い。

(イ) 論文

研究成果の一部は、以下のとおり直翅類談話会において発表した。
槐 真史^b, 2025. 沖縄島におけるショウリョウバッタ・メスの小型個体の記録と体長比較. ちよく誌, (8): 7-8.

ウ 神奈川県レッドデータ生物調査（昆虫・クモ部会）

(ア) 概況

神奈川県が実施するレッドデータ生物調査（昆虫・クモ部会）に部会委員として参画した。県内の直翅類系昆虫（バッタ目・カマキリ目・ナナフシ目・ゴキブリ目・ハサミムシ目）を担当し、現地調査・標本調査・文献調査を進め、以下のリストを公表した。

(イ) 論文

昆虫・クモ類の調査は 2025 年度で終了したが、両生類・は虫類など他分類群の調査終了後にレッドデータブックを刊行する予定である。このため、現時点ではリストのプレスリリース（以下、参照）にとどまっている。

神奈川県レッドリスト2026 昆虫類・クモ類

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f12655/p1197500.html>

(pref.kanagawa.jp in Bing) (2026年4月25日閲覧)

エ 執筆活動

槐 真史 編, 2025. 学研の図鑑 LIVE Pocket SPECIAL 沖縄の昆虫. 248pp. 学研, 東京.

槐 真史 ぶん・福井利佐 え, 2025. みずたまりといきもの. 月刊かがくのとも, (677): 28pp.

8 刊行物

あつぎ郷土博物館では、展示の内容をより深く理解する手立てとして基本展示図録、特別展示図録などを刊行している。

従来、事業周知を目的とし、月1度発行してきた『郷土資料館NEWS』は『あつぎ郷土博物館NEWS』と改称し、刊行、ネット公開を続けている。

また、事業報告を行ってきた『郷土資料館年報』についても、『あつぎ郷土博物館年報』として同様にネット上で公開している。

(1) 展示会図録等（有償配布）

[あつぎ郷土博物館 基本展示図録]			
『あつぎ郷土博物館 基本展示図録』	2019.01	A4版	1,000部
『あつぎ郷土博物館 基本展示図録』	2019.06	A4版	1,000部(初版2刷)
[あつぎ郷土博物館 特別展示図録]			
『開館記念特別展 みる、しる、たのしむ 浮世絵の世界—歌麿・北斎・広重—』	2019.01	A4版	1,000部
『あつぎの花咲く植物の世界—神奈川県植物誌2018の成果をひもとく—』	2020.01	A4版	1,000部
『優しい旅びと・渡辺崋山—「厚木六勝」と「游相日記」—』	2020.09	A4版	1,000部
『知らなかった蛾の魅力—多様な種の多様な生き様—』	2023.10	新書サイズ	1000部
『ドグウ集まれ!』	2024.10	A4版	1,200部
『寿—毛利家と共に—』	2026.01	A4版	1,200部
[あつぎ郷土博物館 郷土学習副読本]			
『あつぎの友好都市 あばしりの自然』	2022.03	A5版	2,000部
[あつぎ郷土博物館 企画展小冊子]			
『デビュー100年「和田 傳」再発見—今甦るあつぎの明治・大正・昭和を生きた作家の真実—』	2023.07	A4版	1200部
『山の奥へ・いわし雲』 和田傳著	2023.07	A5版	500部
『和田傳短編集第1巻 少年少女に贈る五つの物語』	2025.07	A5版	500部
[あつぎ郷土博物館 企画展小冊子] *無償配布			
『有孔鏝付土器と人体装飾文の世界』	2022.07	A4版	1,000部
『バッテリーはねる、飛ぶだけじゃないバッタの魅力—』	2022.11	A5版	1,000部
			1,000部(増刷)
『相模人形芝居大会第50回記念展 人形とともに—相模人形芝居の50年—』	2023.02	A5版	1,000部
『企画展 火の用心—あつぎの秋葉信仰—』	2024.01	A5版	1,000部
『企画展 あかりの道具—火と光、人の文化史』	2025.03	B5版	1,000部

〔あつぎ郷土博物館収蔵資料目録〕 *「火の用心」は無償配布

『あつぎ郷土博物館収蔵資料目録 火の用心/火伏信仰資料』

2024.08 B 5 版 500部

『あつぎ郷土博物館収蔵資料目録 あかりの道具』 2026.03 B 5 版 500部

(2) 博物館NEWS等

〔あつぎ郷土博物館 NEWS号外〕

『あつぎ郷土博物館 NEWS号外』（4～3月号） 2019.4～6 A 4 版 1,150部

〔あつぎ郷土博物館 NEWS〕

『あつぎ郷土博物館 NEWS』（7～3月号） 2020.7～2021.3 A 4 版 1,350部

『あつぎ郷土博物館 NEWS』（4～3月号） 2021.4～2022.3 A 4 版 1,350部

『あつぎ郷土博物館 NEWS』（4～3月号） 2022.4～2023.3 A 4 版 880部

『あつぎ郷土博物館 NEWS』（4～3月号） 2023.4～2024.3 A 4 版 880部

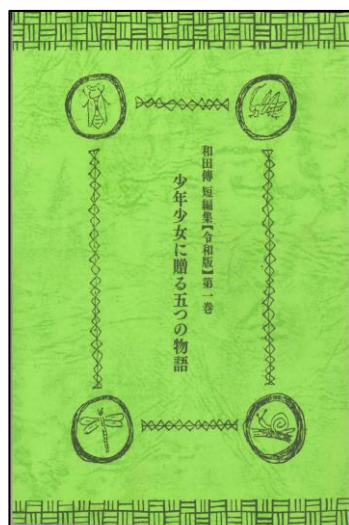
『あつぎ郷土博物館 NEWS』（4～3月号） 2024.4～2025.3 A 4 版 880部

『あつぎ郷土博物館 NEWS』（4～3月号） 2025.4～2026.3 A 4 版 880部

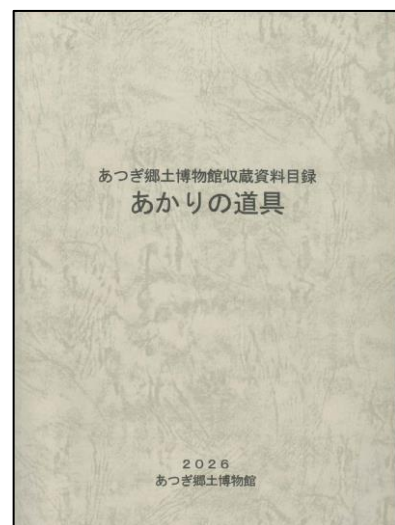
〔（仮称）あつぎ郷土博物館 準備NEWS〕

『（仮称）あつぎ郷土博物館 準備NEWS』（1～9号）

2018.4～12 A 4 版 1,350部



▲『和田傳短編集第1巻 少年少女に贈る五つの物語』（2025年7月刊行）



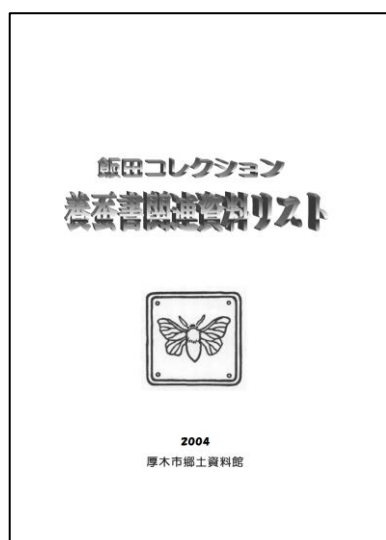
▲『あつぎ郷土博物館収蔵資料目録 あかりの道具』（2026年3月刊行）

【参考】厚木市郷土資料館 刊行物

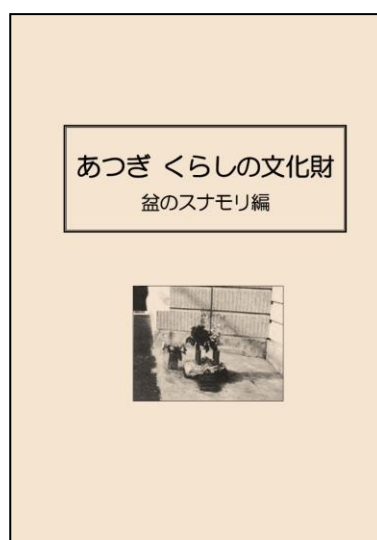
[郷土資料館 常設展示図録]			
『常設展示図録 あつぎ百科』	1998. 11	B 5 版	1, 500部
[郷土資料館 特別展示図録]			
『第1回 おおやまの生きもの』	1998. 11	A 5 版	1, 500部
『第2回 出開帳』	1999. 11	B 5 版	1, 500部
『第3回 化 石』	2000. 7	A 4 変形	1, 500部
『第4回 東海道と矢倉沢往還』	2001. 9	A 4 版	1, 000部
『第5回 あつぎ地域の草木☆花めぐり』	2002. 12	A 5 版	1, 000部
『第6回 農具から農機具へ～流通民具が語るもの～』	2003. 11	A 4 版	1, 000部
『第7回 養蚕書と出版文化～養蚕文化はどう伝わったのか～』	2004. 11	A 4 版	1, 000部
『第8回 相模川の生きものに親しむ』	2005. 11	A 5 版	1, 000部
『第9回 商家と看板』	2007. 2	A 4 版	1, 000部
『第11回 本厚木駅と厚木駅～小田急、相鉄、相模線とあつぎ～』	2008. 11	A 4 版	1, 000部
『第12回 あつぎのむし』	2009. 11	A 5 版	1, 000部
『第13回 ー引札、チラシ、マッチラベル、錦絵、看板ー 広告メディアが語る「商い」と地域の変遷』	2010. 11	A 4 版	1, 000部
『第14回 あつぎ あきのむし』	2011. 10	A 5 版	1, 000部
『第15回 あつぎ 縁起書の世界ー神さま仏さまのプロフィールー』	2012. 11	A 4 版	1, 000部
『第16回 あつぎの野鳥』	2013. 11	A 5 版	500部
『第17回 化 粧』	2014. 11	A 4 版	500部
『第18回 あつぎの草木＊花めぐり』	2015. 11	A 5 版	500部
『第19回 あつぎと酒』	2016. 11	A 4 版	500部
※第6回のみ無償、他は有償頒布。第10回は開館10年記念展。			
[郷土資料館開館10年記念特別展図録] (無償頒布)			
『郷土資料館開館10年記念特別展 あつぎ文化財まつり』	2007. 11	A 4 版	2, 000部

[厚木市郷土資料館資料]

『飯田コレクション 養蚕書関連資料リスト』	民俗資料調査報告	2005. 3. 31	A 4 版	150部
『飯田コレクション 養蚕書関連資料リスト』	民俗資料調査報告	2006. 3. 31	A 4 版	150部
『飯田コレクション 地域関連資料リスト1』	民俗資料調査報告	2006. 3. 31	A 4 版	200部
『あつぎ くらしの文化財 盆のスナモリ編』	民俗資料調査報告	2006. 11. 30	A 4 版	50部



▲第7回 養蚕書と出版文化の借用資料の調査報告書（2006年3月刊行）



▲会員の調査を一冊の報告書にまとめ、刊行（2006年11月刊）

[郷土資料館 収蔵資料展示図録]

『第1回 厚木の画家 島村亮』	1998. 12	A 4 版	500部
『第7回 町場のくらしと民具』	2000. 2	A 4 版	500部
『第9回 職人の道具』	2000. 6	A 4 版	500部
『第11回 鎧と刀』	2000. 12	A 4 版	500部
『第12回 あつぎの野鳥』	2001. 2	A 4 版	500部
『第13回 活動する青年たち』	2001. 6	A 4 版	500部
『第16回 あつぎの民俗芸能』	2001. 12	A 4 版	500部
『第18回 村の古文書一馬場文書一』	2002. 5	A 4 版	500部
『第19回 あつぎの修験者』	2002. 8	A 4 版	500部
『第20回 厚木の文学者 和田傳』	2003. 2	A 4 版	500部

[郷土資料館 NEWS]

『郷土資料館 NEWS』	(1 号)	1999. 3	A 4 版	500部
『郷土資料館 NEWS』	(2 号～13号)	1999. 4～2000. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(14号～25号)	2000. 4～2001. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(26号～37号)	2001. 4～2002. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(38号～49号)	2002. 4～2003. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(50号～61号)	2003. 4～2004. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(62号～73号)	2004. 4～2005. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(74号～85号)	2005. 4～2006. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(86号～97号)	2006. 4～2007. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(98号～109号)	2007. 4～2008. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(110号～121号)	2008. 4～2009. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(122号～133号)	2009. 4～2010. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(134号～145号)	2010. 4～2011. 3	A 4 版	各500部
『郷土資料館 NEWS』	(146号～157号)	2011. 4～2012. 3	A 4 版	各600部
『郷土資料館 NEWS』	(158号～169号)	2012. 4～2013. 3	A 4 版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(170号～181号)	2013. 4～2014. 3	A 4 版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(182号～193号)	2014. 4～2015. 3	A 4 版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(194号～205号)	2015. 4～2016. 3	A 4 版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(206号～217号)	2016. 4～2017. 3	A 4 版	各650部
『郷土資料館 NEWS』	(218号～229号)	2017. 4～2018. 3	A 4 版	各660部

なお、郷土資料館開館以前、市立博物館展示準備のための基礎調査報告書については、『厚木市博物館資料』という体裁で、以下のように刊行し、資料目録（購入、収集、寄贈）も同じシリーズにて発刊してきた。資料館開館後の資料の調査、整理等に関する報告等については、『郷土資料館資料』というタイトルで資料館閉館まで刊行を続けた。

[厚木市博物館資料]

『厚木市荻野の動物Ⅰ』	1995. 3
『厚木市荻野の植物Ⅰ』	1995. 3
『谷戸田のムラ』	1995. 3
『鐘ヶ嶽東方の七沢石』	1995. 3
『最勝寺墓石調査報告書』	1996. 3
『厚木市荻野の植物Ⅱ』	1996. 3
『金光山最勝寺墓石調査報告書』	1995. 3
『収蔵資料目録 1 寄贈・購入昆虫標本目録 (1)』	1997. 3
『収蔵資料目録 2 寄贈・寄託維管束植物目録 (1)』	1997. 3
『厚木市相模川の動植物』	1998. 3
『長福寺墓石調査報告書』	1997. 3
『収蔵資料目録 3 脇一郎寄贈蝶類コレクション目録 』	2005. 3

[博物館収蔵資料展図録]

『第1回 博物館収蔵資料展 坂東彦三郎と厚木』	1994. 2
『第2回 博物館収蔵資料展 世界のチョウ・厚木のチョウ』	1994. 11
『第3回 博物館収蔵資料展 幕末－相州厚木－』	1995. 2
『第4回 博物館収蔵資料展 一夏の風物誌－花火』	1995. 7
『第5回 博物館収蔵資料展 厚木の植物－植物に魅せられた人々－』	1996. 2
『第6回 博物館収蔵資料展 広重の富士三十六景－厚木と富士信仰－』	1996. 7
『第7回 博物館収蔵資料展 厚木の里山をあるく』	1997. 3
『第8回 博物館収蔵資料展 旅－村、往還そして街道－』	1997. 12

9 古民家岸邸

厚木市指定有形文化財である旧岸家住宅を展示場として、市民から寄贈された五月人形や雛人形などの展示を行った。

(1) 展示

	タ イ ト ル	期 間	入 数
1	古民家岸邸の端午の節句	4月20日～5月12日	296
2	古民家岸邸の七夕	6月25日～7月13日	122
3	古民家岸邸の十五夜と十三夜	十五夜 10月1日～10月10日 十三夜 10月29日～11月3日	72
4	古民家岸邸の雛まつり	2月14日～3月9日	710
合 計 4 回			1200



(2) 講座

	タ イ ト ル	開催日	参加者
1	秋のはがき絵教室	10月5日 午後1時30分～午後3時30分	11

(3) 解説

	開催日	団 体	人数
岸邸の建築	11月 9 日	荻野地区地域づくり推進委員会	23
岸邸の建築	2 月27日	愛甲公民館	14
岸邸の建築	2 月27日	緑ヶ丘公民館	19
合 計 3 回			56

10 資料の収集・保管・活用（令和 8 年 3 月 31 日現在）

(1) 資料の収集状況

あつぎ郷土博物館は、前身である郷土資料館の頃から、郷土 厚木の歴史、民俗、自然に関する資料を購入、寄贈、寄託、採集などの方法で収集を行ってきた。令和 8 年 3 月 31 日現在、資料調査、整理を進め、資料件数を点数に改めるなどの精査を行った結果、新たに寄贈を受入れた資料 838 点を加え、合計点数は 190,877 点 となった。

収集した資料は、各種展示会等において展示公開を進めている。

ア 入手方法別 資料の収集状況（累計）

	購入資料	寄贈資料	寄託資料	採集資料	その他	合計(点)
人 文	4,733	31,422	1,521	0	285	37,961
自 然	1,511	24,965	1,436	124,956	48	152,916
合 計	6,244	56,387	2,957	124,956	333	190,877

イ 寄贈資料の受け入れ状況（16件、43点 寄贈者敬称略）

受入月日	資 料 名	寄贈者	数量
令和 7 年 4 月 22 日	番付表（昭和 24 年厚木巡業、相模川引退）	氏名非公開	1
令和 7 年 4 月 4 日	書籍『地域文化の再創造』	山崎 功	1
令和 7 年 4 月 30 日	唐箕（及川村、鈴木製作所）	三角利夫	1
令和 7 年 5 月 27 日	五月人形**	入田覚男	1
令和 7 年 6 月 13 日	長谷座関連資料一括	山口朋彦	1
令和 7 年 8 月 4 日	日章旗、軍歴（佐藤武）	中俣三喜男	2
令和 7 年 10 月 6 日	小林貢作「遠い海から」（ガラス） 大場幸雄作「孤々群Ⅱ」（洋画）	神奈川県	2
令和 7 年 10 月 19 日	相州地震絵図	岸 豊作	1
令和 7 年 11 月 18 日	墓石（関治郎兵衛、近世 厚木医師）	船子本盛寺 田中妙静	1
令和 7 年 11 月 15 日	日本三昧小合地蔵尊資料（平成 2 年）フ ァイル他	千葉 弘	1
令和 7 年 11 月 27 日	神葬祭用具一式、神葬祭関連資料一式	長谷神葬祭 講睦会	2
令和 7 年 12 月 1 日	登山 1 号墳出土 円筒型埴輪*	今井幸恵	1
令和 8 年 1 月 25 日	勲八等白色桐葉章、支那事变従軍記章	笹生公美子	2
令和 8 年 2 月 20 日	小林貢作品	小林淑子	24
令和 8 年 3 月 17 日	書籍『墨ぬり教科書』	松田正貴	1

令和8年3月23日	考古資料（土器及び石器等）一括	久崎教生	1
合 計			43

*は調査室で、**は古民家岸邸で保管

ウ 寄付採納資料の受け入れ状況（3件、795点 寄贈者敬称略）

受入月日	資 料 名	寄贈者	数量
令和7年4月10日	灯火具コレクション	加藤 芳明	729
令和7年5月1日	半原村井上家文書	馬場 弘臣	63
令和8年3月23日	游相日記、田村の渡し他	久崎 教生	3
合 計			795

（2）収集資料の保管状況

あつぎ郷土博物館収蔵資料の多くは、博物館内の4室の収蔵庫等に収蔵、保管されている。

その他にも、昭和40年代から収集を進めてきた民具などの民俗資料は、博物館敷地内の郷土資料収蔵庫（＝写真）、三田公共用地内のコンテナ3基に収蔵している。

あつぎ郷土博物館内に設置された収蔵庫は、

常時空調機を使用し、文化庁が推奨する湿度55%±5%、室温は摂氏22度±5度の温湿度を保つように設定している。

美術、人文、自然、液浸、それぞれの資料の内容により標本箱や文書箱を使用する等、専用の保存収蔵庫に収納、保存している。全館燻蒸は令和元年度に行い、令和7年度に実施した。企画展示室は年1回、燻蒸を行っている。

ア 収蔵施設別 資料の保管状況

	あつぎ郷土博物館 収蔵庫	郷土資料収蔵庫	三田コンテナ	合計（点）
人 文	19,147	17,600	1,214	37,961
自 然	152,916	0	0	152,916
合 計	172,063	17,600	1,214	190,877



イ 収蔵施設面積

	あつぎ郷土博物館 収蔵庫	郷土資料収蔵庫	三田コンテナ	合計 (㎡)
面積	497	348	108	953

(3) 資料の館外貸出等

ア 館外貸出 12件

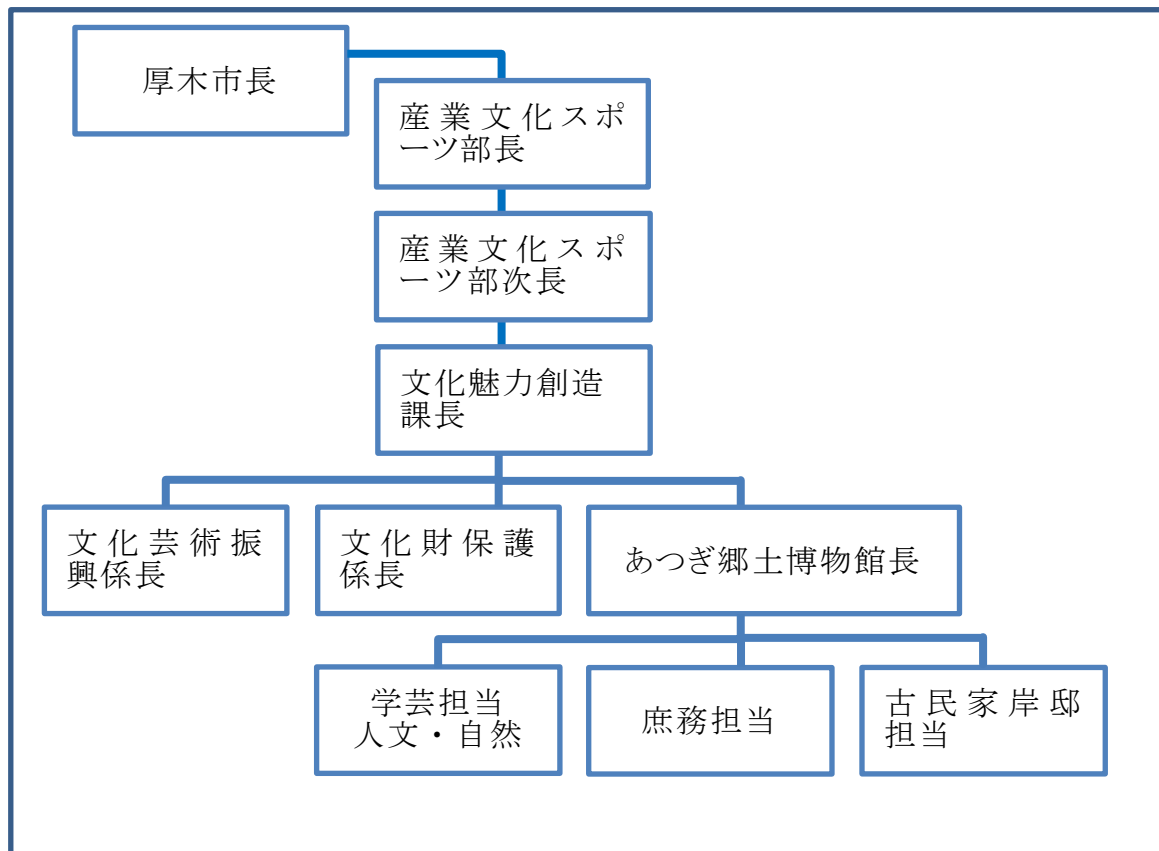
申請日	期 間	資 料 名	貸 出 先	数量
5 月 7 日	5 月 14 日 ～ 5 月 19 日	難波孫次郎彫刻（昭和33年秋 鉄鎚投、万葉の乙女）	個人	2
7 月 18 日	7 月 23 日 ～ 10 月 8 日	ベアト写真帖	山梨県立富士山世界遺産センター	1
7 月 28 日	7 月 31 日 ～ 8 月 10 日	戦争関係資料	福祉総務課	24
7 月 30 日	8 月 20 日 ～ 8 月 31 日	写真（戦時中写真、依知小学校他） 灯火管制用電球他 警戒管制時屋内電燈遮光具 飛行服（キャンバス地行李入） 軍服一括	厚木市認知症を抱える家族すみれ会	5
7 月 30 日	8 月 20 日 ～ 8 月 31 日	土器片（2）、クルリ棒（2）、地神掛軸（1）、古文書（3）	東海大学	8
8 月 9 日	9 月 2 日 ～ 9 月 11 日	島村亮絵画作品	個人	5
10 月 11 日	10 月 11 日 ～ 10 月 17 日	千歯扱（2）、足踏み脱穀機（1）、唐箕（1）	七沢希望の丘 初等学校	4
10 月 23 日	11 月 12 日 ～ 12 月 3 日	かなべえオブジェ	企画政策課	1
11 月 25 日	12 月 10 日 ～ 12 月 12 日	富士信仰資料 御伝（2）、御身拔（3、渡辺・阿川家）	青葉区郷土史の会	5
1 月 23 日	1 月 26 日 ～ 2 月 9 日	炭火アイロン、ヒノシ、ガンドウ	森の里小学校	3
1 月 28 日	2 月 10 日 ～ 2 月 20 日	土器片（2）、クルリ棒（2）、地神掛軸（1）、古文書（3）	東海大学	8
2 月 3 日	2 月 28 日 ～ 3 月 15 日	教科書（10）、戸田の渡し複製（1）、古文書（3）	相川公民館	14

イ 特別利用 14件

申請日	資料名	利用者	形態
4月11日	フェリックス・ベアト撮影 箱根宿の写真	八王子市教育委員会	掲載
4月18日	絹本著色徳川家康像	株式会社NONぷれ (テレビ東京)	放送
4月29日	灸治療開業願附賢秀履歴書他	個人	閲覧
5月9日	クシヒゲマ加里ガ	個人	その他 (画像 での研 究)
6月3日	長谷座資料(床本、幕等)	個人	閲覧 撮影
6月12日	ベアト写真帖	町田市生涯学習センター	掲載
7月6日	昭和21年1月起 マ司令部指令 写綴 玉川村国民学校	個人	閲覧
6月25日	江就記	個人	閲覧 撮影
9月21日	五人組御仕置帳(慶応4年2月)	個人	放送
12月3日	游相日記	綾瀬ふるさと検定協会	掲載
12月25日	銭氏鎮驚丸広告他(千葉家資料)	個人	掲載
1月10日	岩崎昌治氏 遺品	個人	撮影
1月15日	荻野村上荻野火災ニ関スル報告 書(愛甲郡荻野村役場発行) 荻野村中荻野火災ニ関スル報告 書(愛甲郡荻野村役場発行)	荻野の歴史を学ぶ会	撮影
1月28日	耕織図、耕作図絵巻	個人	閲覧 撮影

11 組織及び職員

(1) 組織（令和8年3月31日現在）



(2) 博物館協議会

ア 委員構成（令和8年3月31日現在）（五十音順）

氏 名	所属（分野）	氏 名	所属（分野）
明戸 葉子	厚木市上戸田児童館指導員	松野 勝	あつぎ郷土博物館地域連絡会 会員（元青年の家跡地研究会）
手塚 真理	秦野市くずはの家自然観察 指導員・元市川市立市川自然 博物館学芸員	三井 裕樹	東京農業大学農学部生物資 源開発学科教授
羽毛田 智幸	（公財）横浜市ふるさ歴史 財団課長	望月 一樹	神奈川県立歴史博物館館長
馬場 弘臣	元東海大学教育開発研究セ ンター教授（歴史）	吉崎 健二	公募による選考
広谷 浩子	神奈川県立生命の星・地球 博物館学芸員	吉田 文雄	公募による選考

イ 会議の開催

日 時	内 容
6 月 17 日	令和 6 年度あつぎ郷土博物館事業報告、令和 7 年度あつぎ郷土博物館事業計画について
3 月 4 日	令和 7 年度あつぎ郷土博物館事業報告、令和 8 年度あつぎ郷土博物館事業計画及び長期計画について

12 施 設

(1) あつぎ郷土博物館

ア 建設概要

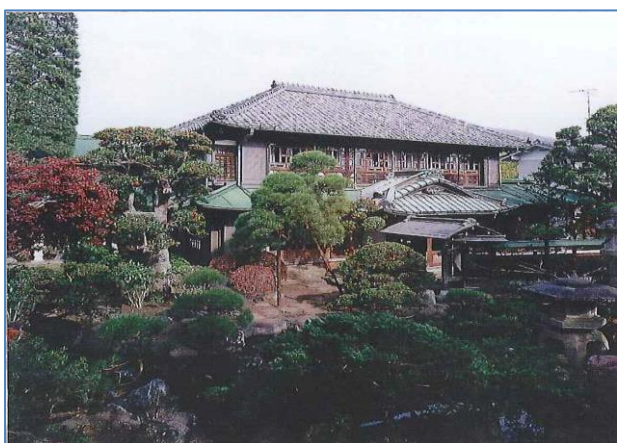
位 置	神奈川県厚木市下川入1366番地 4
敷 地 面 積	10,025㎡
建 物 構 造	鉄筋コンクリート造 地上 2 階建
建物床面積	1,590.10㎡ ・延床面積 1 階 1,092.59㎡、2 階 497.51㎡
開館年月日	平成 31 年 1 月 27 日

イ 展示等面積

基本展示室(1階)	304.15㎡
企画展示室(1階)	85.51㎡
体験学習室(1階)	130.70㎡ (体験学習室 1、2)
専門書庫(1階)	52.70㎡
収蔵庫(1階)	32.29㎡ (化石岩石展示・収蔵室)
展示準備(1階)	90.38㎡ (荷解き場、展示準備室等)
事務・学芸室(1階)	68.22㎡
収蔵庫(2階)	312.25㎡ (人文、美術、自然、液浸)
施設管理室(1、2階)	245.24㎡ (消火ポンベ室、機械室、エレベーター等)
共用部他(1、2階)	268.66㎡ (エントランスホール、トイレ・授乳室他)

(2) 古民家岸邸

位 置	神奈川県厚木市上荻野792番地 2
敷 地 面 積	1,746.25㎡
建物床面積	520.13㎡（主屋 1階 272.25㎡ 2階 140.24㎡ 土蔵1 1階 33.12㎡ 2階 33.12㎡ 土蔵2 1階 20.70㎡ 2階 20.70㎡）
建設年月日	明治24年（1891年）
建物の特徴	岸邸の主屋は、木造2階建て、寄棟造瓦葺。間取りは、一階が土間をもつ六間取りを基本にいくつかの部屋を追加している。二階は、12.5畳の部屋から横一列に3室ならび、その他10畳弱の洋間が造られている。部屋は全部で15室あり、敷地面積は約520坪。 この建物の特徴として次の3点があげられる。 ① 使用されている木材の質が極めて高く、仕上も入念である。 ② 各部の意匠は通り一遍でなく、十分な手間がかけられ、随所に凝った意匠を展開している。 ③ 近世以来の伝統的な農家の間取りである六間取を基本にしながら、本格的な二階座敷を持ち、しかもこの時期には珍しかったであろう瓦葺とするなど、時代の転換期の先端的な様式を併せ持っている。



13 入館者数

(1) 令和7年度 あつぎ郷土博物館 月別入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者	2,682	2,899	2,387	2,614	3,003	2,783	2,134	2,570	790	2,688	3,433	2,179
開館日	29	30	29	28	30	29	30	29	14	27	27	28
平均	92	97	93	93	100	96	71	89	56	100	127	78
累計	2,682	5,581	7,968	10,582	13,585	16,368	18,502	21,092	21,882	24,570	28,003	30,182

(2) あつぎ郷土博物館 年度別入館者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
入館者	11,664	36,586	19,549	19,228	23,115	27,090	33,951	30,182	201,365
開館日	63	320	226	282	332	336	334	330	2,224
平均	185	114	87	68	70	81	102	91	91

*平成30年度は、博物館建設準備のため4月1日から1月25日まで郷土資料館(寿町)を休館し、1月27日からあつぎ郷土博物館(下川入)として開館した。入館者数は1月27日から3月31日までの人数。

*令和元年度は、新型コロナウイルス感染対策のため3月4日から3月31日まで休館。

*令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策のため4月1日から5月26日まで休館。
1月12日から3月21日まで休館。

*令和3年度は、新型コロナウイルス感染対策のため8月7日から9月30日まで休館。

【参考】郷土資料館(あつぎ郷土博物館の前身) 利用者数の推移

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
入館者	4,233	8,685	11,887	12,701	9,424	5,268	8,089	8,076	7,212	12,264	15,001
開館日	144	331	328	329	340	340	340	340	349	353	349
平均	29	26	36	39	28	15	24	24	21	35	43

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	合計
入館者	13,042	12,310	12,895	14,176	13,109	14,289	11,741	8,760	6,338	209,500
開館日	349	351	350	350	350	350	350	359	359	6,711
平均	37	35	37	41	37	41	34	24	18	31

*平成10年度は、11月3日から翌3月31日までの人数。

*平成15年度は、6月15日から9月13日まで耐震工事のため2階展示室を閉鎖。

*平成29年度は、10月1日から、移転準備に伴い2階全フロアを閉鎖。

(3) 令和7年度 古民家岸邸 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入館者	197	298	126	128	123	91	81	117	69	163	424	411
開館日	21	23	21	22	23	20	23	22	16	20	20	21
平均	10	13	6	6	6	5	4	6	5	9	22	20
累計	197	495	621	749	872	963	1,044	1,161	1,230	1,393	1,817	2,228

(4) 古民家岸邸 年度別利用者数

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
入館者	4,229	3,282	5,288	3,506	3,587	3,167
開館日	213	357	357	359	360	359
平均	20	9	15	10	10	9

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
入館者	2,806	2,737	3,834	3,429	3,681	3,242
開館日	359	359	360	359	359	359
平均	8	8	11	10	10	9

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入館者	2,838	4,463	3,134	3,859	4,253	4,306
開館日	360	252	250	249	252	252
平均	8	18	13	16	17	17

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入館者	3,589	3,420	2,130	624	1,620	2,676
開館日	252	252	230	161	215	252
平均	14	14	9	4	8	11

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
入館者	1,849	2,011	2,228	85,349
開館日	248	250	252	7,854
平均	8	8	9	11

* 令和元年度は、新型コロナウイルス感染対策のため3月4日から3月31日まで休館。

* 令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策のため4月1日から5月26日まで休館。
1月12日から3月21日まで休館。

* 令和3年度は、新型コロナウイルス感染対策のため8月7日から9月30日まで休館。

あつぎ郷土博物館年報 8

発行日	令和8年5月31日
編集	あつぎ郷土博物館 〒243-0206 厚木市下川入1366番地4 TEL 046-225-2515
発行	厚木市